

玉置神社伐採問題で県が回答

世界遺産「
国会議員連

あまりにも不誠実

世界遺産「紀伊山地
の霊場と参詣道」に含
まれる十津川村玉置川

の玉置神社(弓場季彦
宮司)で昨年、ご神木
の神代杉(県天然記念

物)の着生木が県の補
助事業で伐採された問



回答を受けて記者会見する議連の玉置特別顧問と
榎井さん、原さん(右から)＝19日、県庁

題で、県は19日、住民
団体などの質問状に文
書で回答した。世界遺
産への影響について
「顕著な普遍的価値に
影響を与えるものでは
ない」としている。

県教育委員会文化財

保存課長と県文化振
興課長が回答。世界遺
産登録要件に影響しな
い理由として、神代杉
の樹生している場所が
バッファゾーン(緩衝
地帯)であると指摘し
た。

天然記念物指定基準
(昭和26年告示)に基
づき、着生木自体も文
化財とする住民団体の
主張は否定。杉の樹勢
回復の方法について
は、「樹木診断を基に
神社内部の十分な協議
を経て、神社が判断す
べき」とした上で、神
社からの現状変更許可
申請を受けて「適正と
判断し、許可している
とした。

回答に対し、連名提

出者の榎井喜孝・ミュ
ージウム工学研究所代
表(65)「京都市」は
「人々の信仰の対象を
傷つけた質的な問題と
いうことを認識すべき
だ」と反発。住民団体
「奥熊野玉置の世界遺
産を守る会」の原秀雄
代表(64)は「大ざっ
ぱで回答になっていな

い」と話した。
守る会の要望を受け
てこの問題を調査して
いる世界遺産国会議員
連盟(馬淵澄夫会長の
玉置公良特別顧問(59)
「和歌山県」も「あま
りにも不誠実な回答」
と述べ、再質問などを
検討するとした。

奈良新聞
8/20